

## 第6次男女共同参画基本計画の基本的な考え方の答申に際して

第6次基本計画策定専門調査会長 山田 昌弘

今般、第6次男女共同参画基本計画の基本的な考え方が取りまとめられますが、時期を同じくして、日本で初の女性の内閣総理大臣が誕生しました。

これまで、日本では、政府による累次の男女共同参画計画や女性版骨太の方針などの取組により、従来に比べ、意思決定層への女性の参画や女性活躍は進展しています。しかし、先進国、発展途上国問わず、国の指導者に女性が就くことが増えている海外に比べると遅れており、女性の国会議員も増えてはいるものの少ない状況にあります。経済分野についても、女性の管理職等増えてはいますが、女性の活躍が十分でないと、日本の更なる発展は困難になると考えます。

また、東京などの都市と比べ、地方では、結婚、こどもの数が減っており、背景として、社会における慣行等を含め、根強い固定的性別役割分担意識が残っていることも考えられます。

こうした状況の中、憲政史上初の女性の内閣総理大臣の誕生は歴史的なことです。これを契機に、政治・経済分野での女性の活躍の加速、さらには、固定的な性別役割分担意識の解消など日本社会の意識・価値観が大きく変わることを期待します。

また、こうした機会をしっかりと捉え、政府には、基本的な考え方を踏まえ策定される第6次男女共同参画基本計画に盛り込まれる取組について、これまで以上に強力に進めることを期待します。

以上